

日 時：平成 30 年 12 月 26 日（水） 午後 3 時 30 分～4 時 45 分

場 所：旭川市科学館 1 階 「学習・研修室」

出席者：構成員 24 名

菅野、鉢呂氏（代理）、堀井氏、矢野氏、橋本氏、松木平氏（代理）、柏葉氏、荒川氏、山内氏、中田氏（代理）、藤井氏、東氏、河田氏、天野氏、馬場氏、川口氏、仁平氏、澤渡（代理）、大友氏、田中氏、上田氏（代理）、秋山氏、相田氏、山角氏

事務局 4 名

都市計画課 高橋課長 ほか 3 名

傍聴者 3 名、随行者 1 名

1 開 会

2 議 事

（1）旭川市地域公共交通網形成計画（案）について

- ・資料 1-1 をもとに、事務局より旭川市地域公共交通網形成計画の協議状況について説明。
- ・資料 1-2 をもとに、事務局より旭川市地域公共交通網形成計画（案）の意見提出手続き結果について説明、その後、質疑応答。

委員（学識者）

バリアフリー車両の件で、トヨタのジャパントクシーと日産の NV 200 と 2 種類あるが、障がい者の団体からジャパントクシーは利用しにくいと指摘された。理由として、86 回乗って 6 回拒否されたことや、乗るときに 2～30 分かかることがあり、評判が悪い事実がある。トヨタが車両を改良するという話も聞いている。手動の車椅子はトヨタのジャパントクシーでもいいが、電動の大きい車椅子はジャパントクシーの車両では結構難しいので、NV 200 を使用する、というように車両の使い分けをしてみてもいい。UD タクシーを購入する際に、トヨタのジャパントクシーではあまりうまくいかないということを経験した方がいい。

会長

車椅子の方については、委員の意見のとおりだと思うが、一方で、タクシーの運転手からは、高齢者で膝や腰の悪い方からは非常に乗りやすくなったとの声があり、評判が良いと聞いている。そういう意味では、使いやすい車が出てきたと思っている。

特に意見がなければ、地域公共交通網形成計画については、修正に係る意見はなかったということで協議を終えてよいか。

（一同意義なし）

(2) 米飯デマンド交通の実績報告について

- ・資料2をもとに事業者より報告

平成30年度(平成29年10月～平成30年9月)の実績を報告する。利用者数は、毎年減少傾向にあったが、平成30年度は前年度と同程度であった。運送収入が2%程増えているのは、4月以降学童の利用者が増えたためである。11月の利用者が瞬発的に増えているのは、同時期に貨客混載がスタートし、意識して乗ってくれた方がいたからだと思う。

(3) 旭川市内のUDタクシーの導入状況について

- ・資料3をもとに、事務局よりUDタクシーの導入状況について説明、その後、質疑応答

委員(事業者)

旭川市においては、UDタクシーの購入にあたり補助金を導入していただき感謝している。各社がそれぞれできる限りの努力をして導入を図っている。限定的な会社数の中で導入が図られているが、決裁権が旭川にある企業と札幌にある企業があるため、導入の度合いに差が出てしまうことをご理解いただきたい。市内にある会社については、積極的に導入を図っている。

先ほど委員の方が言ったとおりジャパントクシーについては、車椅子を横乗りさせるのに、シートを倒し、スロープを出してからジョイントをして、シートベルトを付けてそこからはじめて乗り込むというように工程がものすごく複雑である。トヨタは、改良した車両を製造すると言っている。また、販売済みの車両についても、改造キットを出して改良していきたいと言っている。合わせてジャパントクシーの講習会も各社でしっかり行っている。

車椅子でお乗りいただく場合には、日産のNV200の方が乗降しやすくなっている。車両の構造的に乗降にかかる時間が1分や3分のレベルには至らないため、車椅子のお客様には電話で予約の上ご利用いただいた方が賢明かと思われる。会長が言っていたように、他のお客様からは非常に好評な車両である。乗った時に背も高いしヘッドクリアランス(天井と頭の隙間)も十分で、上級グレードのものについては、シートヒーターもついているので、特にこの時期は乗った瞬間暖かく好評である。

(4) 北海道運輸局補助事業の1次評価について

- ・資料4-1、4-2、4-3をもとに、事務局より説明、その後、質疑応答

委員(学識者)

資料4-1の評価方法⑤の評価がBになっているが、人口減少を考慮して計算するとAになるのではないかと。人口が5人減っていると仮定すると、年間1人あたり何トリップしているか原単位を出してかけ算をすると、明らかに減少しているのか変わらないのかがわかる。

会長

全体の利用者の対象数が減少したら、当然割合も計算の仕方も変わる。

委員(学識者)

総人口で計算するという手もあるが、需要対象者は米飯地区の人なので、その地域の人口が減れば利用者も減る。

会長

資料 4-1 の評価方法について、事務局の方で改めて計算しなおして、5歳以上の人口がどれくらいなのか、それに対する比率で計算する。計算して増加、または同数であればAということで良いか。

委員（学識者）

どの程度の数値の低下であればAになるのか。0.5位であれば誤差で済むのか。誤差についても少し考えた方がいい。また、人数が減ったから目標が達成されていない、と考えるのではなく供給は全てやっているのだから、目的は達成しているのだという考え方もある。

会長

評価方法の計算も含め、限りなくAだという御意見をいただきましたので、資料 4-1 については、事務局の方で精査し、結果によっては評価を変えるということで、会長に一任していただけるか。

（一同承認）

委員（学識者）

資料 4-3 の⑤目標・達成状況で「誰もが利用しやすい公共交通の実現が図られた。」というのは言い過ぎではないだろうか。実現の一步を踏み出したとか、もう少し現実に沿うように書いた方がいいと思う。ここで実現が図られたと言ってしまうと、来年は不要だということになってしまうので、書き換えた方がよいのでは。

会長

資料 4-3 の⑤の表現については、「図られた」という終わった表現ではなくて、「進んでいる」というような表現に記述を変更させていただく。この会議では承認いただいたということで、よろしいか。

（一同承認）

（5）各種報告

- ・資料 5 をもとに、事務局より旭川空港の二次交通に係る連絡会議について説明。

委員（学識者）

既存の交通でこのままいくのか、新たな交通モードを備えるか全然違って来る、例えば外国人はカード決済やスマホで決済する人がかなり増えているので、そちらにシフトしないと手遅れになるのでは。2つ目は潜在需要について。今使っていない人がどうやったら今後使ってくれるのかという潜在需要について調べていかないと、せっかくの機会も逃してしまう。なので、その会議は重要だと思うので頑張っていたきたい。

- ・フィンランドにおける MaaS の実績報告について秋山先生から説明。

MaaS（マース）とは Mobility as a service の略で、スマホで予約、決済して全ての交通手段（貸し自転車、タクシー、ライドシェア、LRT、バス、鉄道等）を使って目的地まで行けるというもの。フィ

ンランドで始まり、今大きな流れとなってきている。ウィーンなどでは、MaaSとは言っていないが、自転車を除く全ての交通手段がたったの1ユーロを払えばウィーン都市圏で使える。1年間365ユーロでタクシーやバスなどを使う事ができる。タクシーとライドシェアは、全く同じになった。昔は地方政府で必ずタクシー3台用意することと決まっていたが、今は自由競争となった。

サンフランシスコでは、ウーバー（スマホを使った配車サービス。ドライバーは一般人）が発達し、タクシーの運転手を奪っている状況となり、すでに公共交通が減り始めている。

網形成計画を作っても、これから技術等が発展していく中でどういう形の将来像を作っていくか真剣に考えなければならない時期がここ数年先に迫っているので、認識しておいていただきたい。

委員（運輸支局）

旭川市地域公共交通網形成計画が来年1月末に策定、公表されるということだが、交通事業を所管する立場からの感想として申し上げる。地域公共交通網形成計画によって、地域社会全体の価値を向上させる側面もあると考える。この計画を今後推進していくものとして、住民はもちろん、旅行者の移動に優しい公共交通が形成され、価値が向上すると思う。そのためには旭川市、公共交通事業者が一番汗をかいていただくことになると思うが、計画の中を見ると、関係団体や事業によっては地域住民にも協力してもらおうことになると思うので、是非、旭川市の価値を上げるような形で推進していくことを運輸支局として期待している。所管する立場として色々協力させていただきたい。その中でも、今回議題であったように米飯デマンド交通などをどうしていくか、委員の方が言ったように旭川空港からの二次交通をどうするのか、市内のUDタクシーの導入を今後どのように増やしていくのか、計画の中で一つ一つの課題として出てくると思う。UDタクシーの導入にあたっては国の補助が期待通りできていないところがあり、申し訳ないと思っている。国としても優しい公共交通のためにできるだけの支援をしていきたいと思っているので今後ともよろしく頼む。

委員（タクシー事業者）

決済システムについてだが、1社はSuicaが使えるようになり、別会社では楽天ペイが使えるようになってきている。少しずつスマホ決済の浸透は進んでおり、今後加速すると思っている。どこに決済方法の中心を置くのか注意しなければならない。様々な決済手段があり、全部入れると車中がQRコードだらけになってしまう。

また、ライドシェアについては、業界としてこの地域には必要ないと考えている。地域の交通は事業者の手で守っていくという決意でいるので、何かあれば問い合わせさせていただき解決に向けて図っていききたい。

3 閉 会

事務局：次回の交通会議は来年、5月中旬～下旬に開催を予定している。

以上